

トビウオ通信 (R5 第6号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《2023年度 第2回 日本海スルメイカ漁況予報》

2023年7月31日に国立研究開発法人 水産研究・教育機構から「2023年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」が発表されました。本予報は、当センターを含む水産関係研究機関で検討し、同機構水産資源研究所が取りまとめたものです。

今回は、その概要と島根県沖のこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

今後の見通し (2023年8月~12月) のポイント

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

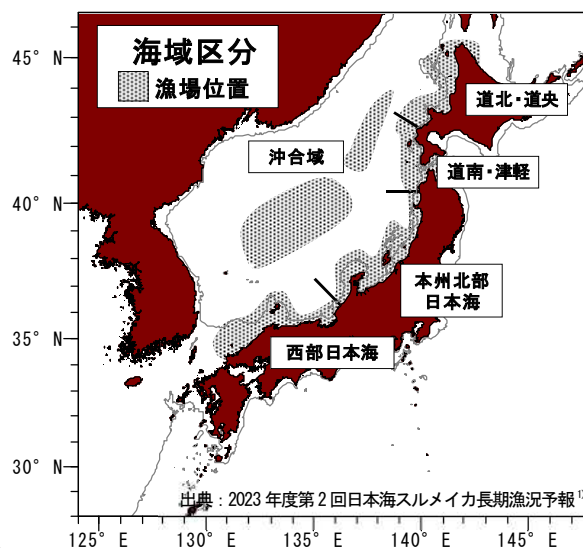
対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

(1) 全体のポイント

今期の日本海全体の来遊量は前年および
近年平均を下回る。

(2) 漁場ごとのポイント

- ・ 道北・道央では前年および近年平均を下回る。
- ・ 道南・津軽では前年並みで近年平均を下回る。
- ・ 本州北部日本海では前年および近年平均を下回る。
- ・ 西部日本海では前年および近年平均を下回る。
- ・ 沖合域では前年および近年平均を下回る。



☞ 「近年平均」とは直近5年間(2018年~2022年)の平均、前年は2022年を示す。

日本海スルメイカ漁況予報の概要

2023年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報では、表1のとおり5つの海域ごとに来遊量・漁況および漁場が予測されています。その内容は、次の4つの情報に基づいています。

- (1) 2023年1月~6月までの日本海沿岸各地のスルメイカ漁況の経過
- (2) 2023年6月中旬~7月上旬に実施された日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果
- (3) 冬季発生系群を主体とした太平洋側のスルメイカの入遊状況²⁾
- (4) 漁期前半(2023年7月中旬~9月)の海況予報³⁾

表1 2023 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報の内容

漁場	範囲	来遊量・漁況	漁期・漁場
道北・道央	宗谷～後志	前年および近年平均を下回る	近年と比べて漁場が形成されにくい
道南・津軽	渡島、檜山、青森県	前年並みで近年平均を下回る	近年と比べて漁場が形成されにくい
本州北部日本海	秋田県～石川県	前年および近年平均を下回る	近年と比べて漁場が形成されにくい
西部日本海	福井県～長崎県	前年および近年平均を下回る	近年同様、漁場が形成されにくい
沖合域	北海道西沖～大和堆周辺海域	前年および近年平均を下回る	近年と比べて漁場が形成されにくい

本紙では、島根県沖を含む「西部日本海」および「沖合域」に関する予報の詳細を紹介します。その他の海域については、国立研究開発法人 水産研究・教育機構が発表した「2023 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」をご覧ください。

(i) 西部日本海（福井県～長崎県）

西部日本海では、10 月以降に沖合から南下する群が漁獲の主対象となります。ただし、近年は 10 月～12 月の南下群の来遊は少なく、漁場が形成されにくい傾向が続いています。

本海域の 5 月以降の漁獲量は前年および近年平均を下回りました。今期後半（10 月～12 月）の来遊量の目安となる日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点での調査 CPUE（釣機 1 台 1 時間あたりのスルメイカ採集尾数）の平均値は前年を下回っており、沖合からの来遊量は前年より少ないと予測されています。

以上のことから、今期の来遊量は前年および近年平均を下回り、近年同様、漁場は形成されにくいと予測されています。

(ii) 沖合域（北海道西沖～大和堆周辺海域）

従来、沖合域では 6 月～12 月にかけて大和堆周辺海域に、8 月～11 月には北海道西沖にも漁場が形成されてきました。しかし、2019 年以降、大和堆や北海道西沖で漁場が安定して形成されず、能登半島周辺や佐渡沖が主漁場となる場合があります。

日本海スルメイカ漁場一斉調査における本海域の調査 CPUE は前年および近年平均を下回り、調査海域全体において分布密度が低かったことから、今期の本海域への来遊量は前年および近年平均を下回り、近年と比べて漁場が形成されにくいと予測されています。

島根県沖での漁況の経過と今後

県内主要 3 港（浜田、恵曇、西郷）における小型いか釣り漁業（5 トン以上 30 トン未満）によるスルメイカの月別水揚動向を図 1 に示しました。2023 年 1 月～6 月までの水揚量は 110 トンで、同期間で比べると、前年（129 トン）および近年平均（154 トン）を下回りました（前年比 85%、

平年比 71%)。

8 月～12 月の予報期間における島根県沖での漁場形成時期は、従来の漁獲パターンから判断すると 10 月以降になると考えられます。今回の予報では、今期後半（10 月～12 月）の西部日本海の来遊量は少なく、漁場も形成されにくいと予測されています。したがって、今後の島根県沖でのスルメイカ漁況は、2016 年以降（図 2）と同様に低調に推移すると考えられます。

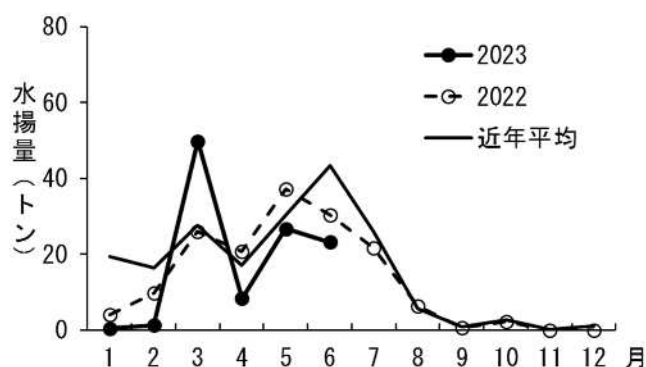


図 1 主要 3 港（浜田、恵曇、西郷）におけるスルメイカの月別水揚動向（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

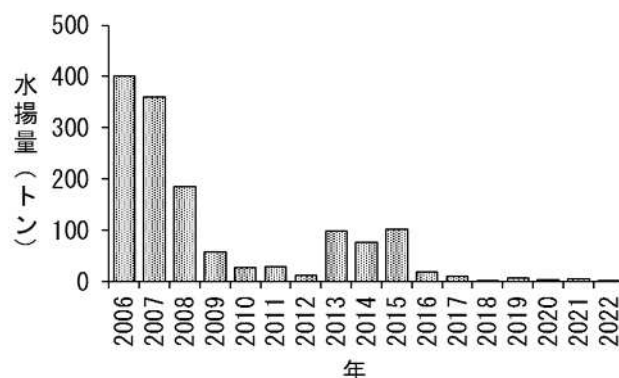


図 2 主要 3 港（浜田、恵曇、西郷）における 10 月～12 月のスルメイカの年別水揚動向（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

※本文中で引用した情報元

- 1) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2023 年度 第 2 回 日本海スルメイカ長期漁況予報」2023 年 7 月 31 日
(https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2023/files/20230731press_srm-n.pdf)
- 2) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2023 年度 第 1 回 太平洋スルメイカ長期漁況予報」2023 年 7 月 31 日
(https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2023/20230731_srm-t/20230731press_srm-t.pdf)
- 3) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2023 年度 第 2 回 日本海海況予報」2023 年 7 月 7 日
(https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2023/files/20230707jpn_press.pdf)